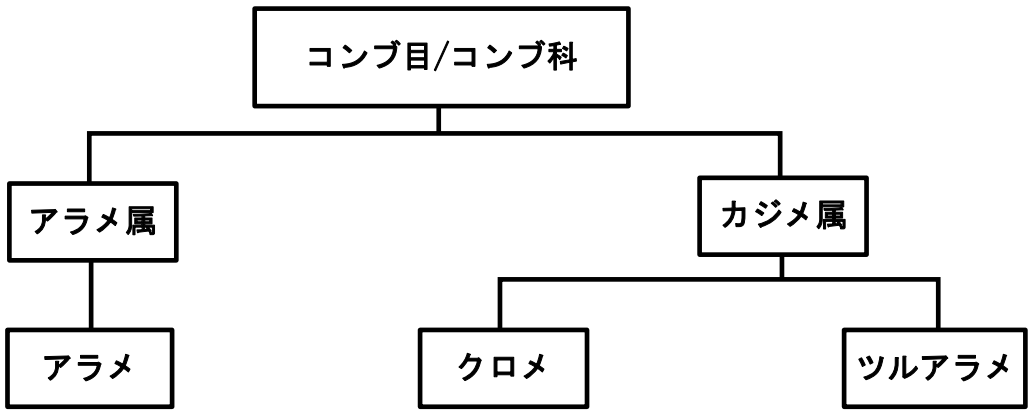
# アラメ・カジメ類の母藻投入ガイドライン
# （暫定版）



令和８年 10 月

福岡県水産海洋技術センター

## （１）筑前海でみられるアラメ・カジメ類






・「２つ葉カジメ」と呼ぶ地域もある。

・茎が二又に分かれ、複数の細長い葉が伸びる

・浅場(３～６m)に多い

・約２年で成長し、寿命は４～６年

・宗像や北九州・遠賀地区でよくみられる



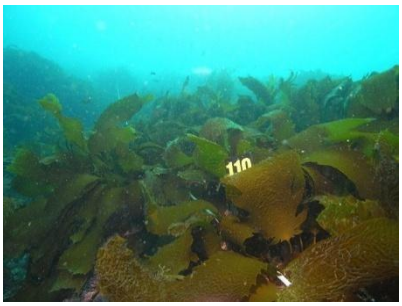
・「１つ葉カジメ」と呼ぶ地域もある。

・茎から葉が１枚伸び、その両側から同サイズの側葉が羽状に伸びる

・広範囲(４～10m)に分布

・約２年で成長し、寿命は３～５年

・糸島や福岡地区でよくみられる



・「１つ葉カジメ」と呼ぶ地域もある。

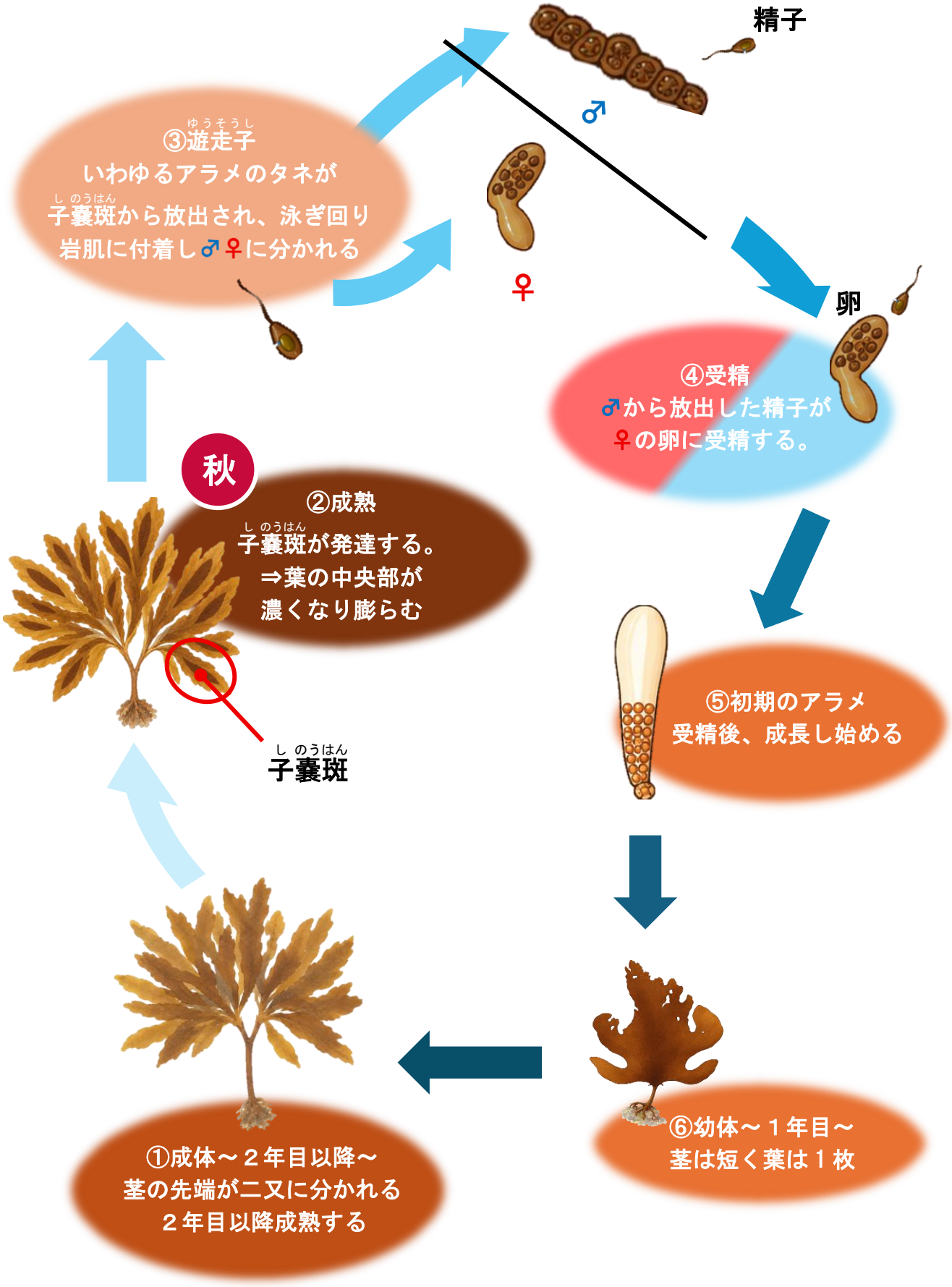
・短い茎から大きな葉が１枚伸び、その両側からごく小さな側葉が伸びる

・深場(5～12m)に生息

・約２年で成長し、寿命は5～6年

・北九州・遠賀地区でよくみられる

（２）アラメの一生 ※クロメもツルアラメも概ね一緒



## （３）母藻投入とは

海藻がなくなった漁場では、海藻のタネが運ばれてこないと、新たに海藻は生えません。そこで、成熟した母藻を漁場に投入し、タネ（遊走子）を供給する藻場造成の手法が母藻投入です。

## （４）母藻投入のやり方

**〇母藻投入の流れ**

**※各工程の詳細については、記載のページをご参照ください。**

**01 母藻の確保**



➢漁場から素潜り等により
母藻を採取(10～11 月頃)
→詳しい手順は P４～

**02 母藻の陰干し**



➢タネを出しやすくする
ため 30 分程度陰干し
→詳しい手順は P６

**03 スポアバック作成**



➢陰干しした母藻、浮子、
おもりをネットに入れ
スポアバックを作成
→詳しい手順は P６

**04 漁場への設置**



➢船上から約 5m 間隔で投入
※約１カ月後にスポアバックを
回収
→詳しい手順は P７

## ～母藻投入の手順～

### ①母藻の確保

・アラメ・カジメ類の成熟が始まる 10～11 月(水温 20℃前後)に母藻を入手します。

・成熟し子嚢斑(しのうはん)が出ている葉だけ、ナイフ等で切りとります。

子嚢斑(しのうはん)

▷葉の中央にできる

▷色が濃ゆく、少し膨らんでいるのが特徴



成熟したクロメ(海中)





子嚢斑(しのうはん)のあるアラメとクロメ

**※母藻採取の際の注意点！**

・成熟していない藻体や、成熟期を終えた藻体からはタネ（遊走子）が出ないため、採取しないようにします。

とってはダメ❌



成熟していないアラメ



成熟が終わり色の抜けたアラメ

・生長点から切り取ると枯れるので、切り取った後に葉が伸びるようにするために、成熟した葉のみを採取します。　　※写真はアラメですが、クロメもツルアラメも同じです。



〈切断面〉
・二又に分かれた片側のみ採取
・生長点より上側で切る



〈生長点〉
・新しい小さな葉が伸びているのが特徴
・この新芽が出ている根元を切り取らないようにする
※分かりにくい場合は二又のなるべく上のほうを切るようにする。

### ②母藻の陰干し

・採取したばかりの母藻は、すぐにはタネが出にくいため、風通しの良い日陰で 30 分程度陰干しし、母藻に刺激を与えます。

ポイント①
ムラが出ないように藻体を広げて干す

ポイント②
効率よく乾かすため新聞紙を敷く

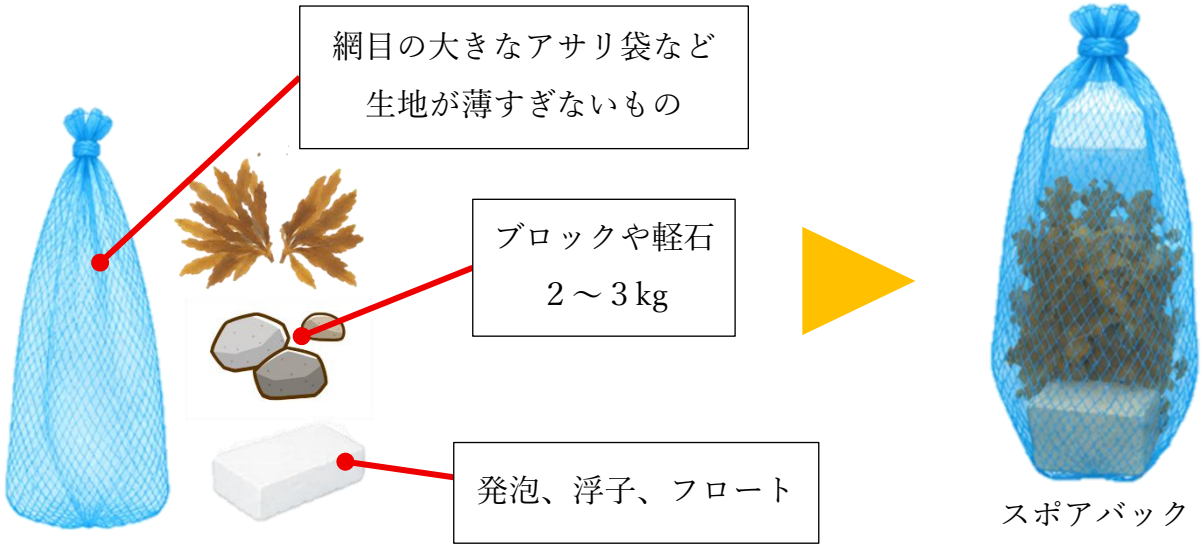


陰干しの様子

※陰干しの注意点※
・乾燥させすぎると母藻が傷んでタネが出なくなります。
・陰干しは半乾き程度が適切です。

### ③スポアバック作成

・陰干しした母藻を、袋・おもり・浮きと組み合わせて、スポアバッグを作成します。
・袋に入れる母藻は袋の 3 分の 1 程度にし、入れすぎないようにします。



**④漁場への投入**

・スポアバックは、船上から落とすようにして漁場に入れます。

・スポアバックは、母藻投入してから１か月後を目安に回収してください。



スポアバック投入



海中のスポアバック

**＜タネが広がる範囲＞**

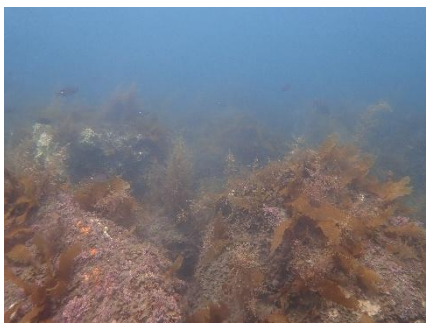
・通常タネは母藻の周囲５～10m の範囲の岩の表面に付着します。

・漁場に入れるスポアバックは、５m 間隔を目安に入れると効果的です。

## （４）母藻投入の場所選びについて

**①底質**

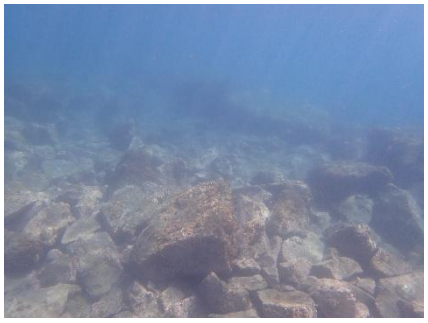
岩盤や大きな転石が多い漁場は◯、小さな転石が多い漁場は△



大きな転石◯

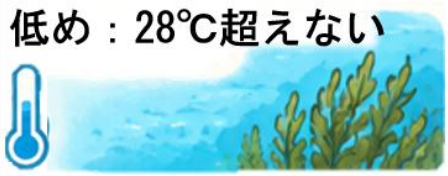


岩盤◯



小さな転石△

②その他の選び方

| 項目 | 適している○ | 適していない✖ |
|---|---|---|
| 潮通し |  |  |
| 海の透明度 |  |  |
| 水温 |  |  |
| 日光 |  |  |

③植食性動物の除去

・母藻投入の効果を高めるため、母藻を投入する前に、ムラサキウニなどの海藻を食べる生き物を除去します。

・ムラサキウニの密度を 5 個体/m²以下にすると、藻場が回復しやすくなります。



ウニが多く母藻投入に不適切な漁場



母藻投入前にウニ除去を行い密度管理

## （５）最後に

・母藻投入は、すぐに効果が現れるものではありません。年数をかけて、継続的に取り組むことが大切です。
・母藻投入後も、ウニの除去などの手入れを継続することで、少しずつ藻場の回復が期待できます。
・実際に取り組む中でうまくいかないことなどがありましたら、水産海洋技術センターにご相談ください。

問い合わせ先
福岡県水産海洋技術センター　浅海増殖課
電話：092-806-0876
FAX：092-805-1155
母藻投入に限らず、藻場や磯根関係についてのご相談は、当方までご連絡ください。